

## 令和4年度事業報告

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

### I 事業活動の概況に関する事項

誰一人取り残さない社会を目指す国連のSDGsにおける17の目標を達成するため、日本政府は“「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現”をキーワードに、あらゆるステークホルダーの参画を重視し、官民の垣根を超えた形で連携を推進する方針を掲げている。また、SDGsの「誰一人取り残さない社会」とは、当法人が人と動物のより良い共生の推進の中で取り組んだ「ICAC KOBE 2015 第4回神戸全ての生き物のケアを考える国際会議 2015」のテーマ「One World, One Life—ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく—」の目標と相通ずるものがある。これらを踏まえ、当法人は、定款第3条を変更し、「人と動物のより良い共生の推進」と併せて「SDGsの推進」を図ることにより、人そして動物の福祉の向上に資することを目的とするとともに、第4条を変更し、「SDGsを進めるための知識の普及啓発」「SDGsにかかわる教育」「SDGsにかかわる情報の収集、提供、研究」「SDGsを進めるためのコンサルティング」等のSDGs推進事業を追加し、今後ステークホルダーとしてSDGsの推進に貢献していくこととした。

令和3年度に新たに公益事業として認定された「SDGs推進事業—One World, One Life—」においては、二つの大きな成果があった。SDGs推進に関する包括連携協定を締結し、提出書類作成の支援を行った兵庫県多可町が「令和4年度内閣府SDGs未来都市」に選定された。また、令和3年度、4年度と神戸市から受託の「こうべ動物共生センター管理運営業務」は、公募型プロポーザルにおいて当法人が選定され、令和5年度も継続して管理運営業務を実施することが決定した。

以下のとおり、当年度も、人も含めた全ての動物の幸せ及び福祉の向上を実現させるため、人と動物のより良い共生及びSDGsを推進する、啓発、教育、研究等の事業を、国内外にその分野の関係団体・専門家・行政機関等に幅広く連携を求めて実施した。

#### 1. 啓発事業

人と動物のよりよい共生を進めるための知識の普及啓発や情報交流、情報提供を行うために、国際会議、シンポジウム、セミナー、展示会、イベント、ドッグスポーツ大会等を幅広く一般の人々を対象に実施するとともに、災害発生時には緊急的に被災者支援を行う。

正確な情報をよりの確に提供出来る様、開催にあたっては、国内外のその分野の関係団体、専門家、行政機関に幅広く協力を求め、連携のもとに行う。

また、人と動物のより良い共生に尽力した企業、団体を表彰する機会を設けたり、商品の製造・販売を通して野生動物の有効活用事業の啓発を行い、人と動物のより良い共生の推進を図る。

その他、人と動物のよりよい共生を進めるため、個人、団体、企業、行政等を対象に、人と動物の共生に係るコンサルティングも必要となるため、第一種動物取扱業（展示）の登録が必要となる。

### (1) 神戸 全ての生き物のケアを考える国際会議 (ICAC KOBE) One World, One Life

阪神・淡路大震災 15 周年を契機に、人も含めた全ての動物の「いのち」に対する責任について考え、人及び動物が幸せに共生できる社会の構築を目指し、震災で多くを学んだ神戸の街から、情報交流、情報発信を行っていく為に 2 年に 1 回実施予定。「お互いの存在に『感謝』し、生ある限りは『幸せ』に暮らすこと。それが、いのちに対する『責任』である」とし、生きとし生けるものが、この地球上で幸せに暮らせる社会にしていく為、様々な専門分野の連携のもと、私達人間に出来ることを幅広く議論する場を提供する。One World, One Life とは「ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく」という概念であり、各々のいのちに寄り添う社会構築に向け情報交流、発信を図る。会議の発表内容は後日、日英両文にてウェブ上に掲載し、無料で閲覧出来るようにする。

#### 【当年度実施】

なし

また、この国際会議の認知度を高めるために、国際会議の動物キャラクターを活用して動物キャラクターグッズ (アイテム) 等を活用し会議の周知を図るため、令和元年度に作成した LINE スタンプを引き続き活用した。

### (2) りぶ・らぶ・あにまらず シンポジウム

2001 年より開催。国内外の人と動物のより良い共生に関わる様々な情報を、シンポジウムを通して提供している。参加費は原則無料にし、学生、一般の方などに広く参加を呼びかけている。当日の発表内容は後日、ウェブ上に掲載し、無料で閲覧出来るようにする。

#### 【当年度実施】

なし

### (3) セミナー、講演会

人と動物が幸せになるために必要な、共生に関わる様々な情報を提供し、より良い共生の推進の一助とする。シンポジウム同様発表内容については、出来得る限りウェブ上に掲載し、後日無料で閲覧出来るようにする。

#### 【当年度実施】

なし

### (4) ドッグスポーツ大会「りぶ・らぶ・あにまらず フェスティバル」

2001 年は、パブリックフォーラムとして開催し、翌 2002 年より初心者向けドッグスポーツ大会 (飼い主さんと愛犬と一緒にフリスビーやアジリティ (障害物競走)、ダンス、カニクロス (愛犬と一緒に走るレース)) として、開催。

2009 年から、毎年春に行っていた「Y2 Day with Dogs」とジョイントし、動物に関わる様々な団体のご協力のもと、ドッグスポーツ大会と一緒に、身体障害者補助犬・ワーキングドッグのデモンストレーション、ライブ、神戸市犬猫譲渡制度の PR などステージプログラムや展示も同時開催。

2016 年からは、六甲山カンツリーハウスとのコラボレーション事業として開催している。

阪神・淡路大震災から5年経過時に、様々な困難を乗り越えて、楽しい時間を取り戻して貰おうと開始した事業であり、飼い主さんと愛犬に一日楽しく過ごしていただきながら、動物と暮らすことの楽しさ・素晴らしさを実感していただく。来場する犬達には、狂犬病等の予防接種を条件付けるなど、適正飼育の啓発にもなっている。人と動物の共生社会を支える飼育マナーの向上や動物との暮らしを通じての世代間交流の一助とし、人と人、人と動物の幸せな共生社会の構築に寄与するために毎年継続事業として行っている。

また、イベントとして行うことで、様々な事情で飼育が出来ない子ども達にも動物愛護教育の場として、活用されている。特に近年では、ペットと暮らすことによる人と動物双方の生理学的な好影響も明らかになってきており、高齢者や子ども達への、心理的・教育的影響とも合わせ、人類が長い歴史の中で培ってきた生物としての共生関係に基づく、人とペット双方の心身の健康への貢献についても情報共有を図る。

令和元年度より、ドッグスポーツ大会と一緒に行ってた補助犬、ワーキングドッグのデモンストレーション、ミュージックライブ、神戸市犬猫譲渡制度のPRなどのステージイベントは、公益社団法人神戸市獣医師会、神戸市動物愛護協会、公益社団法人 Knots の3団体で構成する実行委員会を設置し、「神戸市動物愛護フェスティバル」として行っている。令和3年3月で神戸市動物愛護協会が活動を終えられたため、実行委員会の在り方について検討している。

#### 【当年度実施】

新型コロナウイルスの影響により、集客を伴う大規模なイベントとしての開催の見通しが立たず、実施できなかった。

運動会&ゲーム大会は六甲山カンツリーハウスドッグラン事業と連携した開催とし、人と動物の共生情報発信拠点構築の一助としてきた。六甲山カンツリーハウスドッグラン事業が休止となっており、単発のイベントとして開催する案もあったが、新型コロナウイルス等の影響で実施できなかった。

#### (5) 「ずっと一緒に居ようよプロジェクト」

「ずっと一緒に居ようよ プロジェクト」は、フェスティバルのメンバーが発起人となり、東日本大震災での飼い主さん支援が発端となって始まった。震災での緊急時のみならず、平時においても人と動物が絆を保ち幸せに暮らせるような社会システムを構築するため、その方策を議論研究して提案し、これらの情報を発信、その実現化を支援する。

例えば、2015年の国際会議(ICAC KOBE)では、分科シンポジウムの中の1つとして「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム—伴侶(家庭)動物の暮らしを地域活性へ」というテーマで数名の方の発表があり、人と伴侶動物が地域で共に幸せな生活ができ、尚且つそれが地域の活性に活かされるような社会システムを構築することができるのか、その可能性について考察した。2016年には、このシンポジウムの成果を論文にまとめ、学会誌に掲載されている。

#### 【当年度実施】

学会誌に掲載された論文を、当法人ウェブサイトに掲載し、当法人が神戸市から運営を

受託しているこうべ動物共生センターの見学者等に配布し、情報発信を行った。

#### (6) りぶ・らぶ・あにまらず賞

人と動物の共生に尽力されている商品や企業活動を高く評価すると共に、感謝の気持ちを伝える。対象期間は1年間、毎年一般の方々の応募により、ノミネートし、選考委員の投票によりグランプリを決定する。

【選考委員】横山 章光氏（あいわクリニック院長・精神科医）  
児玉 小枝氏（フォトジャーナリスト／どうぶつ福祉ネットワーク 代表）  
西田 孝廣氏（六甲山観光株式会社 取締役観光事業部長）  
星 信彦氏（神戸大学教授・獣医師）  
富永 佳与子（公益社団法人 Knots 代表理事）

近年、人と動物の共生に向けての事業が多様化し、同一の賞の中で判断が難しくなったこと、共生意識の高まりによって敢えての推薦が少なくなったことから、令和2年度をもってこの事業は休止とした。

#### 【当年度実施】

なし

#### (7) イベント、ドッグスポーツ大会 六甲山カンツリーハウスわんわんドッグフェスタ 運営協力

期間限定のドッグラン、ワンちゃん大運動会、ゲーム大会等の運営協力を行う。

本事業に沢山の飼い主さん、ワンちゃんにご参加頂くことで、動物と暮らす楽しさ、幸せを実感して頂く。そのことがより良い共生推進の一助となり、利用者に狂犬病予防法の遵守を条件付けることで、飼育者の責任の認識を高めることにも寄与している。六甲山カンツリーハウスが令和3年4月より、フィールドアスレチック中心の六甲山アスレチックパーク GREENIA となり、春と秋の常設ドッグランを開催せず、ワンちゃん大運動会等のイベント開催時のみの運営となった。

#### 【当年度実施】

なし

#### (8) 野生動物有効活用推進事業

近年、日本の各地でシカ、イノシシなどの増えすぎた野生動物による農村部での森林被害、農業被害が深刻化している。そのため、多くの野生動物達が、自然環境や生態系を守るために、有害鳥獣として捕獲されているが、その殆どが活用されないまま産業廃棄物として処理されている。兵庫県では、その処理費と農業被害額は、算出すると合わせて約20億円にものぼると言われる。（例：兵庫県では、年間約3万頭を超えるニホンジカが捕獲されている）

このような問題に対処し、動物達の「いのち」を無駄にしないためにも、彼らの肉や骨、皮などを有効に活用していくことが、地域振興や新しい産業の創出の可能性を含め、現在大きな課題となっている。

この有効活用を進めることで、産業が生まれ、雇用機会の創出につながり、ひいては生産者の方々の生活向上の一助となる。また、自然環境や生態系が保全されることにもなる。

Knots では、有効活用推進のため、情報提供や犬用おやつの開発・製造・販売に取り組んでいる。開発、製造には、障害者の方々のみならず、実際に農業被害を受けておられる土地で生活されている主婦グループの方々にも参加して頂いており、新たな産業の創出や地域振興に挑戦している。

添加物等一切加えず、天然由来の原料で製造した、これらのおやつは品質が良く、愛好家も多い。これらの商品を手に取って頂くことで、野生動物のおかれている現状に一般の方々にも目を向けていただくことにつながる。

また、Knots は、「野生動物研究会」※（事務局：兵庫県森林動物研究センター）の幹事を務めている。

※野生動物研究会（旧ニホンジカ有効活用研究会）とは、

兵庫県森林動物研究センターと、兵庫県内でシカ肉の有効活用に取り組んでいる企業、団体、個人が研究会を組織し、当時最大の課題であったシカ肉利用促進に向けた情報の収集、共有を図ることにより消費者のニーズにあった供給体制を研究し、シカ肉利用に関する正確な情報発信を行うことにより、需要の拡大を図り、野生動物資源利用を通じた地域振興と人と野生動物のより良い共生社会の構築に資する研究会事業を行っていたが、シカ肉については、流通に掛かるネットワーク組織も立ち上がった為、野生動物全般に掛かる共生研究へと対象を広げることになった。

#### 【当年度実施】

- ・播州鹿を使用した犬用おやつの販売
- （４．障害者の自立支援事業でもある）

#### （９）各種コンサルティング、相談業務の実施

動物と安全に楽しく暮らすための相談対応、ペット可集合住宅での管理組合・管理会社のサポート、野生動物との関わり方等、人と動物の共生に係る様々な相談に対応。また、人も動物も快適な住まいや旅行等の商品開発の為にコンサルティングを実施。人と動物のより良い共生を推進し、人も動物も幸せにする為に、必要な相談及びコンサルティング業務を行う。

#### 【当年度実施】

- ・電子メールや電話、オンラインでの各種相談に対応
- ・企業からのドッグラン運営等のコンサルティング依頼に対応
- ・企業からのカーボンニュートラルの取り組みに関連する事業のコンサルティング依頼に対応

#### （１０）Knots MODEL CLUB

テレビや雑誌などから紹介（出演）の問い合わせが多くあったことから、これを市町村への犬の登録、狂犬病予防接種など病気予防と健康管理、しつけなどを条件として本法人で登録し、ウェブサイトにて無料で公開することで飼い主さん自慢の犬が、モデル的に伴侶

動物として大切にされている姿を見ていただき、広く一般の方々にも、人と動物の幸せな共生を見ていただくことで啓発する。

#### 【当年度実施】

新規登録数 1件

#### (11) 情報提供事業

主にウェブサイト、メールマガジン等を通して、幅広く不特定多数の方々にと動物の共生に関わる様々な情報を提供していく。

#### 【当年度実施】

当法人の事業について広く知っていただき、人と動物のより良い共生および SDGs 推進に役立たせていただけるよう、幅広く不特定多数の方々にと動物の共生および SDGs 推進に関わる様々な情報の提供を行った。

##### ・ウェブサイトでの情報発信

当法人のウェブサイトは、人と動物のより良い共生および SDGs 推進に関わる様々な情報を発信するだけでなく、国内外の各分野の専門家や自治体、団体、個人を繋ぎ、当法人の事業をとおして蓄積された知識や情報を、必要なときに必要な人に届けるなど、多様な役割を担っている。また、事業に関する自治体や企業、団体からのコンサルティングや視察、相談などの窓口にもなっており、当法人の名称でもある「Knots（結び目）」としての重要なコミュニケーションの場となっている。

##### ・サイトの全面リニューアル <https://knots.or.jp/>

「SDGs 推進事業—One World, One Life—」の公益認定を受け、当法人のこれまでの事業内容を整理し、「SDGs 関連事業」「教育・啓発・研究関連事業」「人と動物の共生関連事業」という大きな3つの柱に分類して掲載することとした。それぞれの事業がどういった関係性で成り立ち、どういった分野で相互に関連しているのかを明確にし、『人と動物の共生及び SDGs を推進し、人も含めたすべての動物がより大きな喜びを感じながら、幸せに暮らせる社会の実現』という当法人の事業理念をより分かりやすくお伝えできるようにリニューアルを行った。本年度の更新内容は以下の通り。

##### <主な更新内容>

4月 第10回公益社団法人 Knots アドバイザリーボードミーティング報告

6月 兵庫県多可町が内閣府「SDGs 未来都市 2022」に選定されました／「こうべ動物共生センター」が NHK 神戸の取材を受けました／「こうべ動物共生センター」が読売テレビの取材を受けました

7月 PIIA Knots リレーエッセイ No.187

9月 奈良県うだ・アニマルパーク振興室「2022 サマースクール in うだ・アニマルパーク」チャレンジ C『張り子の動物を作る』報告／明石市「万が一のときのことを考えておきましょう」（啓発チラシ）のご紹介／動物愛護週間中央行事「動物愛護フェスティバル」開催のお知らせ

10月 PIIA Knots リレーエッセイ No.188／令和4年度奈良県「いのちの教育」研修会

- 開催のお知らせ/JAHA どうぶつフェスタ 2022 人と動物の絆一緒にいるってこんなに幸せ☆報告/日本獣医史学会創立 50 周年記念式典/記念講演会 参加報告
- 11 月 『2022 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”』報告/『ひょうご SDGs シンポジウム』参加報告/『ぼうさいこくたい 2022』報告/PIIA Knots リレーエッセイ No.189
- 1 月 こうべ動物共生センター管理運營業務に関する事業者募集の結果について/あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ様 あいおいニッセイ同和神戸支店プロ会様 寄附金寄贈式のご報告/PIIA Knots リレーエッセイ No.190
- 2 月 東京青山ロータリークラブ 第 1363 回例会 参加報告/あいおいニッセイ同和神戸支店プロ会様 新春セミナー 報告/大分県の動物愛護教育『命の授業』の実施状況について
- 3 月 令和 4 年度「いのちの教育」研修会 報告/張り子作り研修会報告/第 11 回公益社団法人 Knots アドバイザリーボードミーティング報告/【with PETs 290 号】で Knots をご紹介いただきました！（公益社団法人日本愛玩動物協会機関誌での掲載紹介）

・メールマガジン（Knots Club News）の配信

当法人事業の成果を広く共有し、人と動物のより良い共生および SDGs 推進に役立たせていただけるよう、メールマガジンの配信を通して、人と動物の共生および SDGs 推進に係る情報を提供した。配信先は 1,300 を超える。

毎月 1 回の配信を目指し 296 号～304 号のほか、臨時号、特集号の配信を行った。当法人が包括連携協定を締結している兵庫県多可町（6. SDGs 推進事業 —One World, One Life—）の SDGs 推進に関する情報や、神戸市より運営を受託している「こうべ動物共生センター」（6. SDGs 推進事業 —One World, One Life—）の各月の参加者募集プログラムの案内およびプログラム実施報告、あったらいいなシリーズ犬用おやつ（4. 障害者の自立支援事業および 1 - （8）野生動物有効活用推進事業）の開発・販売情報、他団体のセミナー情報等のほか、主な配信内容は以下のとおりである。

<主な内容>

296 号：産業情報新聞社ペット & Life 「PIIA Knots リレーエッセイ」（神戸市立須磨海浜水族園・獣医師 毛塚千穂先生）/長崎県で譲渡型保護猫シェルター設立を！（一般社団法人長崎さくらねこの会クラウドファンディングへの挑戦）ほか

Knots ウェブサイトリニューアル特別号：ウェブサイトリニューアルの案内

297 号：多可町が「SDGs 未来都市 2022」に選定/長崎県で譲渡型保護猫シェルター設立に向け、クラウドファンディング達成！ほか

298 号：産業情報新聞社ペット & Life 「PIIA Knots リレーエッセイ」（こうべ動物共生センター）/張り子作りにチャレンジしませんか！？ほか

299 号：張り子作り教室レポート/動物感謝デーに参加させていただきます！ほか  
動物感謝デー特集号：動物感謝デーにブース出展！/Knots の法人紹介リーフレットが新しくなりました！

奈良県「いのちの教育」研修会特集号：令和4年度奈良県「いのちの教育」研修会開催決定！／産業情報新聞社ペット & Life「PIIA Knots リレーエッセイ」（神戸市立王子動物園・副園長 竹原孝弘先生）／「ぼうさいこくたい2022」神戸で開催

300号：『2022 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”』報告／奈良県「いのちの教育」研修会開催／日本獣医史学会創立50周年記念式典／記念講演会レポート ほか

301号：産業情報新聞社ペット & Life「PIIA Knots リレーエッセイ」（兵庫県森林動物研究センター 田口彰様）／ぼうさいこくたい2022 レポート／ひょうごSDGs シンポジウムレポート ほか

神戸市クラウドファンディング特集号：神戸市がクラウドファンディングに挑戦！～全ての猫に帰るお家を！神戸市の挑戦にエールを【日本初の「猫条例」・神戸市人と猫との共生に関する条例】～

2022年12月臨時号：Knots 事務局年末年始の休業日／ジー太くん、今までありがとうございました！（こうべ動物共生センターで適正飼養アドバイザーと「老犬との暮らし方教室」の講師を務めていただいている中塚圭子先生の愛犬（「老犬との暮らし方教室」に参加）への追悼メッセージ） ほか

2023年1月臨時号：Knots 事務局住所変更のお知らせ／ちよだニャンとなる会が新たに法人を設立、クラウドファンディングに挑戦中！ ほか

302号：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ様 あいおいニッセイ同和神戸支店プロ会様寄附金寄贈式のご報告／産業情報新聞社ペット & Life「PIIA Knots リレーエッセイ」（人とペットの共生環境研究所所長／しつけ方教室ドルチェカーネ・中塚主催／宮崎大学客員教授 中塚圭子先生）／産業情報新聞社ペット & Life「年頭の辞」（当法人代表理事・冨永佳与子） ほか

303号：東京青山ロータリークラブ第1363回例会参加報告／あいおいニッセイ同和神戸支店プロ会様新春セミナー報告 ほか

304号：「いのちの教育」研修会報告／大分県「命の授業」実施状況／張り子作り研修会報告 ほか

#### ・リレーエッセイ

有限会社産業情報新聞社発行のペット産業情報新聞ペット & Lifeに、「PIIA Knots リレーエッセイ」としてコラムを連載している。当法人に関わりのある様々な分野の識者に執筆を依頼し、当法人のテーマである「人も（ヒト以外の）動物も幸せな共生」について多様な切り口でメッセージを頂いている。

No.187：こうべ動物共生センター

《人も動物も、ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸市—愛護から共生へ…人と動物の幸せな共生を目指して—》



No.188：王子動物園・副園長：竹原 孝弘さん

《都会の中のオアシスであり、大自然のエントランスである「動物園」の役割》

No.189：兵庫県森林動物研究センター・森林動物専門員：田口 彰さん

《ペットや家畜とは違う、人と野生動物との共生のあり方》

No.190：人とペットの環境共生研究所所長・しつけ方教室ドルチェカーネ・中塚主  
催・宮崎大学客員教授：中塚圭子先生

《ネットワークで乗り切る高齢犬介護》

・学会誌抜き刷り冊子の配布

「第 98 回日本獣医史学会研究発表会」（令和 2 年 10 月 17 日（土）開催）で当法人・富永代表理事が発表した「（公社）Knots の活動と 25 年の歩みー小さな結び目は社会を変えるー」が日本獣医史学雑誌第 58 号（2021 年 2 月 20 日発行）に掲載されたが、その発表内容が出版社により抜き刷り冊子として印刷・製本可能となったため、当法人の紹介資料として関係者に配布した。今年度は増刷して配布を行った。当法人ウェブサイトの団体概要のページにも掲載している。

・令和 4 年度 動物感謝デー

2022 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”

日時：2022 年 10 月 1 日（土）[10：00～17：00] ※雨天決行

会場：上野恩賜公園

主催：公益社団法人 日本獣医師会

当年度は動物感謝デーが 3 年ぶりに開催され、ブース出展で参加し、当法人の事業紹介とともに、障害者自立支援事業および野生動物有効活用事業として製造している犬用手作りおやつ「あったらいいなシリーズ」の販売を行った。

また、当法人が奈良県「いのちの教育展開事業」連携協定事業で連携協定を締結し、共に「いのちの教育」の普及を推進している奈良県のうだ・アニマルパーク振興室も当法人の隣のブースに出展され、連携をして奈良県「いのちの教育」プログラムについての PR も行った。

参加報告は当法人ウェブサイトに掲載し、メールマガジンで報告掲載の紹介を行った。

・公益社団法人日本愛玩動物協会発行機関誌「with PETs」No.290

公益社団法人日本愛玩動物協会は、ペットの愛護及び適正飼養管理の普及啓発活動などを行うために必要な知識・技能などを向上させることを目的とした愛玩動物飼養管理士の資格認定を行っている公益法人であり、有資格者数は全国で約 21 万人にのぼる。同法人が発行している機関誌「with PETs」は、販売の他、全国自治体の動物愛護担当課や動物関係の法人・団体にも広く配布されている。

今回は、No.290 の特集「日本の動物愛護関連団体の変化と広がり」において、「第 4 章 団体の種類～任意団体から公益法人まで～」の「動物関連団体による活動事例紹介」のコーナーに、日本有数の自然保護団体「公益財団法人日本野鳥の会」と共に当法人の歩みや事業内容等について取材を受け、その内容が掲載された。また、任意団体から公益法人までの種類や特徴について解説されるコーナーにおいては、富永代表理事へのインタビュー内容「持続可能な団体運営のためには法人化の検討も必要」が

コラムとして掲載された。掲載内容は当法人ウェブサイトに掲載し、メールマガジンで掲載の紹介を行った。

## 2. 教育事業

人と動物のより良い共生を進めるために役立つ情報を、主にインターネットを通して幅広く提供。実施した会議やシンポジウム、講演会等の貴重な内容については、可能な限りウェブサイト上で、日英両文にて公開し、当日会場に来られなかった全世界の不特定多数を対象に教育の機会を設ける。

また、人と動物のより良い共生を推進する為、一般市民はもとより、関わる専門家、学生等にとっても有益な知識、情報を提供するべく国際会議、セミナー、研修会イベント等を実施、その他学校の教育事業に協力する等、人材の育成、知識の向上、児童及び青少年の健全育成に貢献する。この事業の一環として動物を伴って教育事業を行うこともあることから、第一種動物取扱業（展示）の登録が必要となる。

### (1) 情報提供による教育機会の提供

人と動物のより良い共生の推進の為に、開催する国際会議、シンポジウム、セミナー等の内容は、全て後日、記録集（可能なものについては、日英両文にて制作）としてウェブサイト上で無料公開し、会場に来られなかった不特定多数の方々へ教育の機会を提供する。機会があれば随時、セミナー、講演会を実施し、情報と教育の機会を提供する。

また、海外の文献を翻訳し、人と動物の共生に関わる情報を提供していく。

### 【当年度実施】

- ・ウェブサイト <https://knots.or.jp/>

研修やセミナー等の参加者募集案内や当法人が主催（奈良県うだ・アニマルパーク振興室と共催）した「いのちの教育」研修会（2－（3）奈良県「いのちの教育」連携協定事業）、当法人職員対象の「張り子作り研修会（2－（4）教育ツール共有事業）の報告のほか、当法人職員が参加したセミナー、イベント等の参加報告、講師を派遣したセミナー（2－（2）講師の派遣）の報告を掲載するなど、随時更新を行っており、研修やセミナー等の報告を通して、来場できなかったの方々への教育の機会を提供した。産業情報新聞ペット&Life に定期的に掲載していただいている「PIIA Knots リレーエッセイ」では、「人も（人以外の）動物も幸せな共生」をテーマに、識者の皆様よりメッセージを頂き、業として関わるの方々にも、最新の概念をお伝えしていく機会としており、ペット&Lifeに掲載された「PIIA Knots リレーエッセイ」は、Knots ウェブサイトにも掲載した。ウェブサイトの更新情報はメールマガジンの配信を通して広く周知を図っている。

- （1－（11）情報提供事業でもある）

- ・メールマガジン（Knots Club News）の配信

当法人事業の成果を広く共有し、人と動物のより良い共生および SDGs 推進に役立たせていただけるよう、メールマガジンの配信を通して、人と動物の共生および SDGs 推進に係る情報を提供した。

毎月1回の配信を目指し296号～304号のほか、臨時号、特集号の配信を行った。当

法人が包括連携協定を締結している兵庫県多可町（6. SDGs 推進事業 ―One World, One Life―）の SDGs 推進に関する情報や、神戸市より運営を受託している「こうべ動物共生センター」（6. SDGs 推進事業 ―One World, One Life―）の各月の参加者募集プログラムの案内およびプログラム実施報告、あったらいいなシリーズ犬用おやつ（4. 障害者の自立支援事業および1-（8）野生動物有効活用推進事業）の開発・販売情報、他団体のセミナー情報等のほか、主な配信内容は、1-（11）情報提供事業で示したとおりであり、各種研修会やセミナー開催情報だけでなく、開催報告、参加報告等の情報提供を行うことで、参加できなかった方々への教育の機会も提供した。

（1-（11）情報提供事業でもある）

・産業情報新聞ペット&Life「PIIA Knots リレーエッセイ」記事連載

「人も(人以外の)動物も幸せな共生」をテーマに、識者の皆様よりメッセージを頂き、業として関わる方々にも、最新の概念をお伝えしていく機会とした。ペット&Lifeに掲載された「PIIA Knots リレーエッセイ」は、Knots ウェブサイトにも掲載し、メールマガジンで掲載をお知らせして情報を提供した。

## （2）講師の派遣

専門学校、セミナー等への講師派遣を随時実施、人材育成、知識の向上及び青少年の健全育成に貢献する。

講師として講演・講義を行ったセミナー等については、ウェブサイトで内容等の報告を行い、メールマガジンにおいて報告掲載をお知らせしている。広く人材育成や知識向上等についても情報の発信を行うことで教育の機会を提供すると同時に、閲覧した方への啓発にもつなげ、人と動物の共生が、より自分たちの生活に身近なものであることを伝えている。

### 【当年度実施】

・あいおいニッセイ同和神戸支店プロ会主催新春セミナー

日時：2023年1月12日（木）15:40～17:10

会場：あいおいニッセイ同和損保神戸ビル 4階 43号会議室+姫路ビル会議室（TV）  
+リモート（Teams）

内容：

①現場の立場から見たペットへの補償の必要性について

講師：みや動物病院 院長 宮豊先生

②家族の一員であるペットとの共生について

～飼い主様にとってかけがえのないペットの存在～

講師：公益社団法人 Knots 事務局長 北村美代子

## （3）奈良県「いのちの教育」連携協定事業

平成24年度（2012年度）に奈良県と締結した『奈良県いのちの教育展開事業』に於ける連携協定に基づき、奈良県「いのちの教育」プログラムの普及を奈良県と共に推進する。動物を通じた教育は、いのちを大切に、共感力を育む教育として文部科学省の指導要領にも盛り込まれており、アジア型ヒューメイン・エデュケーション構築に取り組み、

人も動物もお互いを思いやれる未来へ寄与するものである。この事業は、主に、自治体等の教育に関連する職員等に対してこのプログラムを軸とした研修会、講演会等を実施する。これらの取り組みの成果や研究発表はウェブサイトで多くの方に無料で公開することで教育の機会を提供、また、このウェブサイトを読んだ方への啓発にもなる。多くの自治体職員や教育関係者がメールマガジンなどの情報でサイトの内容を見ていただくことにより、他府県での教育ツール導入のきっかけを創出し、より多くの子どもたちが奈良県「いのちの教育」プログラムを受けることができる仕組みを提供している。この事業を通じて、いのちに対する責任が生まれ、思いやりの心も養われ、豊かな人間性を涵養する。

奈良県「いのちの教育」連携協定事業の一環として、うだ・アニマルパーク振興室で実施されている「いのちの教育」プログラムの取り組み内容や、その成果などを全国の動物行政や教育関係者などと情報共有をして、今後の更なるプログラムの内容のブラッシュアップや他の自治体での取り組みとの連携などを目的として奈良県「いのちの教育」研修会を定期的開催している。

#### 【当年度実施】

- ・奈良県「いのちの教育」研修会開催（10月28日／11月11日）

令和4年度は10月28日（金）と11月11日（金）に奈良県うだ・アニマルパークにおいて3年ぶりに実施し、関西エリアだけでなく、大分県、愛媛県など多方面から関係者が参加。各地で実際に子どもたちに接している現場の職員が一同に介して情報交換ができる機会はなかなかないため、「動物のいのち」を通した子どもの教育の情報発信拠点として重要な役割を担っている。

開催日：2022年10月28日（金）

開催場所：奈良県うだ・アニマルパーク 振興室 動物学習館

主催：奈良県うだ・アニマルパーク振興室、公益社団法人 Knots

後援：奈良県教育委員会／宇陀市教育委員会／公益社団法人日本動物病院協会／公益社団法人奈良県獣医師会

内容：

- ・主催者挨拶（うだ・アニマルパーク振興室 葛本室長／公益社団法人 Knots 富永代表理事）
- ・授業見学（小学生プログラムⅠ 気づき）～A 小学校～（40分短縮授業）
- ・うだ・アニマルパーク「いのちの教育」の経緯及び取組について
- ・授業見学（小学生プログラムⅡ 共感）～B 小学校～（40分短縮授業）
- ・小学生プログラムの現状と評価（アンケートの結果9報告）
- ・今後の動物愛護教育について意見交換
- ・動物愛護センター施設見学（希望者のみ）
- ・小学生プログラムⅢ 責任 ～概要紹介（希望者のみ）
- ・「いのちの教育」中高生プログラム概要紹介（希望者のみ）

開催日：2022年11月11日（金）※概要は上記と同様

内容：

- ・主催者挨拶（奈良県知事公室 南部東部振興監 藤井氏／公益社団法人 Knots 富永代表理事）

- ・授業見学（小学生プログラムⅢ 責任）～C 小学校～
- ・小学生プログラムの現状と評価（アンケート結果）報告
- ・授業見学（小学生プログラムⅡ 共感）～D 小学校～
- ・うだ・アニマルパーク「いのちの教育」の経緯及び取組について
- ・今後の動物愛護教育について意見交換
- ・動物愛護センター施設見学（希望者のみ）
- ・小学生プログラムⅠ 気づき～概要紹介（希望者のみ）
- ・「いのちの教育」中高生プログラム概要紹介（希望者のみ）

- ・ウェブサイト掲載やメールマガジン配信による研修会情報提供

上記日程で開催の奈良県「いのちの教育」研修会開催情報、参加者募集、研修会報告について、広く情報提供を行った。当年度の研修会には、全国から9自治体（愛媛県、大分県、滋賀県、奈良県、兵庫県、吹田市、寝屋川市、姫路市、四日市市）の参加があった。研修会では、「いのちの教育」プログラムの授業見学や奈良県の取組について情報を得るだけでなく、各自治体での「いのちの教育」プログラムをはじめとした教育事業の実施状況や各自治体が抱えている課題を共有して情報交流を行っている。研修会報告だけでなく、参加された自治体で実施されている「いのちの教育」の情報についてもウェブサイトに掲載し、メールマガジンで報告掲載について広く発信することで情報提供および教育の機会の提供を行った。このような報告を通して、研修会への参加意欲を促し、自らの自治体が抱える課題などを見つめ直すことができるきっかけを与えている。

- ・奈良県「いのちの教育」研究協議会（7月4日（月）／12月5日（月））

奈良県「いのちの教育」展開事業は、上記協議会にて実施内容の検討・方向性の決定が行われている。当法人代表理事が、副会長を務める。

- ・第1回奈良県「いのちの作文コンクール」

奈良県「いのちの教育」展開事業が継続される中で奈良県教育委員会主催の第1回奈良県「いのちの作文コンクール」が開催され、富永代表理事が審査委員を務めさせていただいた。

#### （４）教育ツール共有事業

現在、全国の動物愛護（管理）センターなどでは、「いのちの大切さ」や「適正飼養」「殺処分数減少」を目的とした、子どもたちへの教育活動の必要性に対する認識が高まっている。

こうした現状を踏まえ、これまでに各地の動物愛護（管理）センターと共に企画開発を行い、すでに導入されて教育現場で実績のある動物愛護教育およびヒューメイン・エデュケーションに関するツール類を共有する事業を展開する。また、使用実績や実施レポートなどの情報を報告し、日本におけるヒューメイン・エデュケーションの向上と各自治体間の連携の促進を図り、少しでも多くの自治体で人と動物のより良い共生の推進を図ることで、心豊かな社会の実現を目指す。

多くの自治体で使用されている実績を持つ「いのちの教育」プログラムは、すでに完成された内容の実施プログラムであるため、その内容は変更することなく、使用する動物の

種類を地域性に合わせて変化させたり、各自治体で独自に実施している内容と組み合わせて実施することによって、より地域に根ざした教育効果をあげる工夫を行っている。

#### 【当年度実施】

- ・令和4年度動物愛護週間中央行事（屋内行事）「2022 どうぶつ愛護オンラインシンポジウム」

日時：2022年9月24日（土）[13:00~16:10] ※YouTubeによる配信

主催：動物愛護週間中央行事実行委員会

講演者：①「動物たちが教えてくれる大切なこと」

奈良県うだ・アニマルパーク振興室・奈良県中和保健所動物愛護センター  
副主幹／獣医師 藤井 敬子先生

②「モルモットを教室の中で育ててみた」

文京学院大学人間学部児童発達学科 特任教授 森田 和良先生

毎年9月20日から26日は「動物の愛護及び管理に関する法律」第4条で定められた動物愛護週間であり、動物への理解と関心を深めることを目的に、令和4年度動物愛護週間中央行事（屋内行事：9月24日（土）／屋外行事：10月1日（土）；2022動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”と同日開催）が開催された。その屋内行事において行われた講演において、当法人が奈良県「いのちの教育展開事業」連携協定事業で連携協定を締結し、共に「いのちの教育」の普及を推進している奈良県うだ・アニマルパーク振興室の藤井敬子先生が講演者として登壇されるにあたり、「いのちの教育」紹介スライドおよびダウンロード用学習シートの作成を行い、遠方の方にも身近に奈良県「いのちの教育」プログラムの概要を知ってもらえる機会を与えた。

当行事については、開催告知等のウェブサイト掲載、メールマガジンの配信で情報発信を行った。

- ・兵庫県明石市 市民生活局（あかし動物センター）（令和5年3月下旬納品）  
多頭飼育崩壊防止啓発用ポスターおよびペット啓発チラシ作成。
- ・当法人職員を対象とした「張り子作り研修会」（令和5年2月21日（火））  
奈良県「いのちの教育」プログラムの教材である大型張り子の作り方を学ぶ研修会を実施した。実施報告はウェブサイトに掲載し、メールマガジンを配信した。

### 3. 研究事業

人と動物のより良い共生を推進する為に必要な情報収集と研究を行い、その情報を幅広く提供することで、啓発、教育事業を行う。

啓発、教育、研究いずれの事業を実施する場合においても、国内外の関係団体、個人、企業、行政機関の連携、協力は不可欠であるため、企業、行政、団体等からの依頼により、人と動物の共生に関わる調査研究等を実施し、情報の収集と発信に関する事業を展開する。

#### 【当年度実施】

「神戸市人と猫との共生推進協議会」へ参画。当法人代表理事は、監事を務める。

同協議会では、人と動物の共生に掛かる繁殖制限および譲渡事業に取り組み、「神戸市人と猫との共生に関するガイドライン」も策定した。

当年度は、当法人の受託事業である「こうべ動物共生センター管理運営業務」（6. SDGs 推進事業）において、こうべ動物共生センター内に「神戸市人と猫との共生に関する条例」の紹介パネルを展示したり、紹介ポスターを掲示・デジタルサイネージで表示するなどして「神戸市人と猫との共生推進協議会」の活動について情報発信を行った。併せて「神戸市人と猫との共生に関するガイドライン」（神戸市人と猫との共生推進協議会発行）の概要版および野良猫版をこうべ動物共生センター内で市民に配布し、当該条例と当該協議会について周知を図った。

#### 4. 障害者の自立支援事業

当法人が販売している安全安心な犬用手作りおやつのは NPO 法人おーけすとら・ぴっと就労継続支援（B 型）事業所 Patch（パッチ）に製造を担当していただいている。また、開発より関わっていただき、新商品の開発も共に行っている。2002 年に Patch の創設者より「Patch は、障害者の方が製造したものであるから、と同情で商品を購入していただくのではなく、正当な評価のもと、一般の商品と競争出来る商品作りを行うことで、障害者の方々が社会参加出来る作業所を目指したい」という相談があった。

そこで、意識の高い飼い主のニーズに合った安全、安心な犬用おやつを販売することが、障害者の方々の自立支援となるのではないかということで、一緒に開発、製造、販売に取り組むこととなった。その後、Patch は製造担当として品質管理等にも注力され、商品の品質も認められて、今では多くの顧客が定期的に購入をして下さっている。その結果、モデル作業所として認められ、他所からの視察も多い。

また、この事業の推進によって、障害者の方々が仕事に対するやりがいを感じ、楽しく取り組んでおられる。人と動物の共生には、このような社会的取り組みの形もあることを、この事業の安定的継続が示唆している。

#### 【当年度実施】

- ・ あったらしいなシリーズ犬用クッキー等の販売  
動物病院等への卸売、Knots Shop（ネットショップでの小売）での販売のほか、2022 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”（1 -（1 1）情報提供事業）で出展販売を行った。
- ・ あったらしいなシリーズ犬用クッキーの新商品開発  
2022 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”（1 -（1 1）情報提供事業）で出展販売を行った際にお客様から頂いたお声をもとに、原材料に米粉を使用したクッキーの開発を行った。（令和 5 年 5 月より販売開始）
- ・ 播州鹿を使用した犬用おやつの販売  
（1 -（8）野生動物有効活用推進事業でもある）  
2022 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”（1 -（1 1）情報提供事業）

で出展販売を行った。

## 5. ペットと暮らす住まいに係る支援金助成事業

1. 啓発事業（5）「ずっと一緒に居ようよ プロジェクト」の一環として行う被災した被害者に対するペット可物件への入居費用の助成は、毎年計画的に実施するものではなく、発生した災害が激甚災害として指定された時に緊急的に実施する。ペットと一緒に生活できる環境を取り戻すことで被災者の自立を支援し、被災者が立ち直っていく姿を周囲の方々にも見て頂き、ペットと一緒に暮らすことの大切さを理解して頂くことで啓発にもなる。

### <助成事業の概要>

**事業の目的：**当法人は、人と動物のより良い共生の推進を図り、人そして動物の福祉の向上に資することを目的としており、この事業は、被災の程度、ペットの種類に関わらず、家族の一員であるペットと一緒に暮らすことができるように、入居する際の費用を支援するために行う。

**寄附金の募集：**当法人のウェブサイト等で寄附金募集を周知するが、寄附金の用途について、ペット可物件への入居費用に充てることを趣旨とし、併せて支援金の振込手数料等への充当、残金の処理方法についても明示した上、寄附金を募集する。

**支給額と残金処理方法：**支給額は、集まった寄附金の範囲内で、理事会において決定するが、寄附金の残金が生じないよう努めるとともに、やむを得ず残金が生じた場合は、その後の別の激甚災害の支援金助成事業の原資とし、それ以降も同様の処理をし、目的外使用はできないものとする。

**確認体制：**当法人アドバイザリーボードメンバーの内2名が、必要書類等を確認する。この確認結果に基づいて、理事会が支給の可否を決定し、その結果を申請者及び宅建業者に通知する。

### 【当年度実施】

なし

## 6. SDGs 推進事業 —One World, One Life—

誰一人取り残さない社会を目指す国連の SDGs における 17 の目標を達成するため、日本でも政府が“「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現”をキーワードに、あらゆるステークホルダーの参画を重視し、官民の垣根を超えた形で連携を推進する指針を掲げている。

当法人の事業において、SDGs の 17 の目標の多くに貢献してきており、特にゴール 17 の「パートナーシップで目標を達成しよう」というのは、自治体や企業・他団体との連携を図り課題を解決してきた Knots の在り方そのものである。

人も動物も幸せな社会に向けての事業を続けてきた中で、「人もまた生き物である」という視点から生まれた、「りぶ・らぶ・あにまらず ICAC KOBE 2015 第4回神戸全ての生き物のケアを考える国際会議 2015」のテーマ「One World, One Life—ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく—」を、当法人



設立 20 周年を迎えての次のステップへのテーマとした。この概念は SDGs と目標を同じくするものであり、今後もステークホルダーとして更なる貢献ができるよう、行政機関や他団体・企業と連携を図り、SDGs を推進する事業を行う。

SDGs の推進のために必要な様々な情報収集と研究を行い、セミナーや体験活動等の実施を通して人材育成・教育の機会を設ける。希望すれば誰もが学べるよう、リモートでの参加や実施した記録・資料を可能な限りウェブサイトで公開する等、幅広い情報提供を行い、フェスティバル等のイベントにおいても、情報発信を行う。また、SDGs を推進し、誰一人取り残さない社会の実現の為に、必要な相談業務を行い、支援を必要とする人が必要な支援を受けられるよう関係機関と連携を図る。

令和 4 年度は、以下の 3 つを行う。

兵庫県多可町での SDGs 事業推進にあたっては、令和 3 年度 6 月に多可町と締結した包括連携協定に基づき、多可町役場と協働し、SDGs 推進事業における民間側参画企業及び団体の全体コーディネートを担当する他、必要に応じて、個別の事業運営の準備を行う。

神戸市においては、令和 3 年度に神戸市北区のしあわせの村に開設された「こうべ動物共生センター」の管理運営業務を行う。仕様書に基づき、アニマルセラピー、子どもを対象にした動物共生教育、飼い方相談、犬猫飼育者支援、身体障害者補助犬の普及啓発等の啓発・教育事業等を担う他、「幸せな動物との共生」を支えるプラットフォームを構築する。受託期間は 1 年間延長され、令和 5 年 3 月 31 日までの予定である。

「ペットも一緒に SDGs！」の 카테고리を作り、SDGs をより一般化する試み《「人とペットとの暮らし」の視点を活かした SDGs の取り組みを紹介・推進していく》により、SDGs 推進に貢献する。その視点を広めるため、ウェブサイト上で情報発信を行い、呼びかけ・啓発を図っている。

## 【当年度実施】

### <兵庫県多可町での SDGs 事業推進>

令和 3 年 6 月 21 日に包括連携協定を締結した多可町が、内閣府の「令和 4 年度 SDGs 未来都市・自治体 SDGs モデル事業」に応募する際の提案書作成支援等に取り組み、申請書の提出を行った。多可町は令和 4 年度 SDGs 未来都市に選定された。

### <こうべ動物共生センター管理運営業務>

神戸市においては、当法人が受託した「こうべ動物共生センター管理運営業務」の受託期間が令和 5 年 3 月 31 日まで 1 年間延長され、神戸市の仕様書に基づき、以下の業務を行った。なお、令和 5 年 4 月 1 日からの業務については、当年度内に実施された「令和 5 年度こうべ動物共生センター管理運営業務委託公募型プロポーザル」に応募した結果、当法人の受託が決定し、継続して業務を行うこととなった。

こうべ動物共生センターは、30 年以上前からノーマライゼーションに取り組み、すべての人が健康で文化的な活動に参加できるように整備された SDGs 視点を持ったソーシャルインクルージョン（社会的包摂）を目指す複合施設である神戸市北区のしあわせの村に令和 3 年度に開設された。動物関係の公的機関で初めて「共生」と名付けられた、保護動物の譲渡と教育・啓発を行うことを目的とした施設である。こうべ動物共生センターでは、人と動物の幸せな暮らしを支える関係者をつなぎ、市民ひとりひとりに寄り添う課題解決を目指し、神戸市の「幸せな動物との共生」を支えるプラットフォームを構築して、「ずっと一緒に幸せに暮らしていける」SDGs 視点を持ったあたたかな神戸市を実現してい

く。この実現のためには、「市民を幸せにする動物共生チーム」である「こうべ動物共生プラットフォーム」の構築が不可欠である。

「市民を幸せにする動物共生チーム」である「こうべ動物共生プラットフォーム」は、関連団体、動物取扱業登録事業者、関連事業事業者、学校・動物病院等、ボランティア等、各地域の包括支援センター、社会福祉協議会、自治会、病院等が連携・協働する仕組みで、市民ひとりひとりに寄り添う課題解決のサポートを行い、市民は自身の課題解決をプラットフォームに相談し、サービスを活用することができるようになる。こうべ動物共生センターの事業の成果やプログラムは研修等を通じて「こうべ動物共生プラットフォーム」に提供され、出前型事業「出沒・こうべ動物共生センター」を各地域で実施することで広く周知を図り、プラットフォームを通じて神戸市全体に行き渡らせることが可能となる。

こうべ動物共生センターの事業は、後述のセラピー研究フィールドアドバイザーや適正飼養アドバイザーをはじめ、様々な分野の専門家に関わっていただき、アドバイスをいただきながら実施する。事業の実施においては、IAHAIO のガイドラインに沿って、事業に参加する動物にはなるべくストレスがかからないように配慮している。各事業の実施報告等の情報は専用ウェブサイト上で提供し、来所できない市民への利便を図る。専用ウェブサイトでは各事業等の成果を活用し、市民の様々な課題に対し、解決・相談の場が整備されていることを報せる。

## IAHAIO

Knots は IAHAIO のフルメンバーになっている。IAHAIO は、人と動物との相互作用の正しい理解を促進させるために各国で活動している学会、協会等の国際的な連合体として、米国の Delta Society (現 PetPartners)、フランスの afirac、イギリスの SCAS が中心となって 1992 年に設立した。IAHAIO の使命は、人と動物の相互作用 (Human Animal Interaction=HAI) の分野を進歩させるために、国際的な指導力を提供する。

6. SDGs 推進事業—One World, One Life—のこうべ動物共生センター管理運営業務における全ての事業は IAHAIO 白書 (IAHAIO 動物介在介入の定義と AAI (動物介在介入 Animal Assisted Interventions) に係る動物の福祉のガイドライン) に沿って実施している。

《共生センター開所実績》307 日 (休館日：火曜日・年末年始の閉庁日)

・受託者企画事業

### 「セラピー研究フィールド」

人と動物相互の科学的影響を明らかにし、広く市民生活の質の向上に貢献し、国内外へ情報発信できるよう、令和 3 年度に国内外の専門家による研究フィールドを構築した。調査・研究の成果は、個人情報に配慮した上で、こうべ動物共生センターウェブサイト上で提供し、市民への利便を図ると共に、国内外へ情報発信を行う。セラピー研究フィールドアドバイザーを以下の先生方に務めていただいている。

## <セラピー研究フィールドアドバイザーの先生方>

### 《国内アドバイザー》

中山裕之先生（東京大学名誉教授／動物医療センターPeco 獣医療研究所長）

土居裕和先生（長岡技術科学大学 技学研究院 情報・経営システム系 准教授）

柴内裕子先生（赤坂動物病院総院長／公益社団法人日本動物病院協会 相談役）

島村俊介先生（大阪公立大学 獣医学部 小動物臨床医学 准教授）

### 《海外アドバイザー》

木下美也子先生（グリーン・チムニーズ&ファーム サム&マイラ・ロス研究所教育プログラム部長／神戸市出身・アメリカ）

Andrea Beetz 先生（MA 心理学／博士号（心理学）／博士号（特殊教育）特別・インクルーシブ教育教授 IU 国際応用科学大学・ドイツ）

令和4年度は、アニマルセラピー 動物ふれあい事業「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」をセラピー研究フィールドにおいて実施した。犬に本の読み聞かせを行う子どもの様子を動画で撮影し、感情分析ソフトを使ったデータ分析やアンケート調査などを用いて、認知機能・精神状態に与える影響の実証的検証を行った。人に対する研究は、令和4年7月「神戸市保健事業に係る研究倫理審査委員会」において、神戸市の研究として正式に承認された。また、犬に対してはウェアラブルデバイスのペットバイタルセンサー装着による心拍計測、および唾液採取による自律神経活動指標の評価と、参加中の様子のビデオ撮影を行い、行動からストレス反応の評価を行った。人の側からと犬の側からの研究を同時に行い、人と犬相互の科学的影響を調査・研究しており、次年度も継続して実施し、調査・研究の成果は、個人情報に配慮した上で、こうべ動物共生センター専用ウェブサイト上で提供し、市民への利便を図ると共に、国内外へ情報発信する。

## 「こうべ動物共生プラットフォームの構築」

「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸市」を実現するため、神戸市の「幸せな動物との共生」を支えるプラットフォームを構築する。動物取扱業登録事業者、関連事業事業者、関連団体、ボランティア等の連携とスキルアップのため、賛同する企業、団体、個人の参加を促し、神戸市の「市民を幸せにする動物共生チーム」を構築する。令和4年度は、動物取扱業登録事業者の方々を中心に関連する方々に呼びかけ、プラットフォーム構築の合意を得るまでを目指したが、新型コロナウイルスの影響により、令和5年度に持ち越しとなった。

## 「市民へのセンター成果のフィードバック及び課題収集」

専用ウェブサイトでの情報発信のほか、「出沒・こうべ動物共生センター」（出前型事業）として、防災と関連付けて防災イベント等とのコラボレーションにより、各区で年に1回「しつけ方教室」「飼育相談」「身体障害者補助犬の普及啓発」等の実施を目指す。1月17日（阪神・淡路大震災）前後に開催される防災イベント等を想定し、各区のまちづくり課等との連携を検討したが、新型コロナウイルスの影響による予算変更措置のため事業内容の見直しとなり、令和4年度の実施を見送った。令和5年度は、各地域で開催されるイベントに出展する形での開催も考慮する。

## 「こうべ動物共生情報の提供・収集」

こうべ動物共生センター専用ウェブサイト上に「こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー」を設け、ペットとの暮らしを支える獣医療、しつけ方教室、ペットと入居可能な住宅や施設などの情報や、イベント情報、ペットが入れる避難所などの防災情報などの共生支援情報を提供する。令和4年度はこうべ動物共生プラットフォームの構築を実施できなかったため、専用ウェブサイトにおいても「こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー」を設けることができず、令和5年度に持ち越しとなった。

### ・アニマルセラピー 動物ふれあい事業

#### 「わんちゃん読書会 (R.E.A.D.プログラム)」

子どもが犬に本の読み聞かせを行うことで音読が苦手な子どもが自信を失うことなく意欲を育み、読書力の向上等の効果が期待できると共に自己肯定感を持てるようになり、犬との関わりを通して心の成長を促すことを目的としたプログラムである。令和4年度は以下の日程で実施した。

令和4年7月30日(土) / 8月11日(木・祝) / 9月11日(日) / 9月24日(土) / 10月22日(土) / 11月6日(日) / 11月27日(日) / 12月25日(日) / 令和5年1月29日(日) / 2月23日(木・祝)

### ・子どもを対象とした動物共生教育事業

#### 「獣医師体験プログラム」

幅広い獣医師の世界を体験し、学びを深めることにより、人と動物の共生とは、人の生活に深く関わるものであることへの気づきを促し、様々な人と動物の在り方についての理解を深めるプログラムである。

プログラムの監修は、獣医師・獣医学博士で当法人監事である堀尾政博先生が行っている。令和4年度は以下の日程と内容で実施した。

- ・令和4年5月22日(日)「お肉はどこから来るの？」(食品衛生)  
〔協力：神戸市食肉衛生検査所〕
- ・令和4年6月25日(土)「水族園のお医者さん」(水族館)  
〔協力：神戸市立須磨海浜水族園〕 小学校低学年・小学校高学年～中学生 (1日2回)
- ・令和4年7月29日(金)「多様な動物が生きる「地球」という環境」(動物園)  
〔協力：神戸市立王子動物園〕
- ・令和4年8月4日(木)「感染症って何？」(公衆衛生)  
〔協力：大阪公立大学獣医学研究科〕
- ・令和4年8月22日(月)「公務員としての獣医さんの仕事」(公務員)  
〔協力：神戸市動物管理センター〕
- ・令和4年9月4日(日) 小学校低学年・9月23日(金・祝) 小学校高学年～中学生  
「野生動物との共生」(野生動物)〔協力：株式会社野生動物保護管理事務所〕
- ・令和4年10月15日(土)「いちばん身近な存在「ペット」の健康と幸せを守るには」  
(小動物)〔協力：大阪公立大学獣医学研究科〕 小学校低学年・小学校高学年～中学生 (1日2回)
- ・令和4年12月10日(土)「身近な大動物・牛」(大動物)〔協力：芝崎牛の診療所〕

- ・令和5年2月5日(日)「人と共に生きてきた馬について」(大動物)  
〔協力：大阪公立大学獣医学研究科／公益社団法人神戸乗馬倶楽部〕
- ・令和5年2月26日(日)「私たちの暮らしと動物との関わり」(産業動物)  
〔協力：兵庫県農業共済組合阪神家畜診療所(神戸市立六甲山牧場)〕

### 「犬ともだちになろう」

犬との接し方を学ぶことで、思いもかけない咬傷事故を予防するだけでなく、犬(他者)のきもちを想像したり、寄り添うきもちの大切さを考えるきっかけを与え、心臓の音を聞く拡張心音計(心臓の音を拡大してスピーカーから聞くことができる機械)を用い、犬や子どもたちそれぞれの心音を聞くことで、音の違い、速さの違いといった違いに気づき、自分や自分以外の「いのち」の大切さ、「いのち」への共感ができる子どもを育てることを目的としたプログラムである。令和4年度は以下の日程で実施した。

令和4年4月17日(日)／6月4日(土)／10月9日(日)／10月30日(日)／  
12月17日(土)／令和5年3月11日(土)

### 「いきものといっしょ」

神戸市副読本「いきものといっしょ～みぢかなどうぶつに目をむけてみよう～」を活用し、動物たちのきもちについて考えるプログラムを実施し、他者に対する共感や思いやりといった情操や、動物や自然に対する理解や責任といった態度の醸成を図る。令和4年度は以下の日程で実施した。

令和4年4月30日(土)／5月14日(土)／5月21日(土)／6月11日(土)／  
7月9日(土)／8月6日(土)／8月13日(土)／8月19日(金)／  
8月20日(土)／9月10日(土)／9月24日(土)／10月29日(土)／  
令和5年1月7日(土)

### 「いのちの教育」プログラム

子どもたちが命の大切さや自らの責任について考えるプログラムとして、すでに多くの自治体で導入実績がある奈良県「いのちの教育」プログラムを実施する。実施依頼のあった神戸市内の小中学校でプログラムⅠ～Ⅲの全3つのプログラムを実施した。

令和4年6月9日(木)／7月14日(木)／9月8日(木)  
神戸市立泉台小学校 2年生2クラス

- ・飼い方相談事業(犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談)  
プログラム構築のため、有識者・経験者で「**適正飼養アドバイザー会議**」を設置し、以下の機能を持たせる。
  - ①共生センターのしつけ方教室・しつけ相談のプログラム構成
  - ②上記プログラム実施に向けてのアドバイス
  - ③各区での教室・相談に対応できる体制づくり
  - ④こうべ動物共生プラットフォームの研修体制の整備

## <適正飼養アドバイザーの先生方>

### 《座長》

村田香織先生（獣医師／公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）認定家庭犬しつけインストラクター）

### 《メンバー》

近藤悦子先生（獣医師／JAHA 認定家庭犬しつけインストラクター）

中塚圭子先生（JKC 公認訓練士／JAHA 認定家庭犬しつけインストラクター）

適正飼養アドバイザー会議の中で開催教室について協議し、以下のとおり実施した。

「**老犬との暮らし方教室**」（対象：老犬とその飼い主） 令和4年11月3日（木・祝）

「**和犬教室**」（対象：生後6ヶ月齢までの和犬（和犬系の雑種犬を含む）とその飼い主）  
令和4年12月11日（日）

「**お散歩診断**」（対象：お散歩が苦手、落ち着いて歩けない等の日常のお散歩で困っている飼い主とその飼い犬）

令和4年6月16日（木）／9月10日（土）（座学）／10月20日（木）／

11月10日（木）／11月19日（木）／12月15日（木）／令和5年3月9日（木）

「**楽しくしつけを学ぼう～ドッグスポーツにチャレンジ!**」

（対象：しつけ方教室への参加に迷っていたり学ぶ前にまずは犬との関係づくりを深めたい飼い主とその飼い犬）

令和4年4月15日（金）／5月20日（金）／10月14日（金）／11月18日（金）

### ・犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

飼い方相談・犬猫のしつけ相談（電話・メールによる相談、来所による相談）を受け付け、令和4年度は、電話・メールによる相談は146件、来所による相談は20件に対応した。

「**パピーのお困りごと相談会**」（対象：生後4ヶ月齢までの子犬とその飼い主）

問題が起こってから対処するのではなく、問題が起こる前の予防・社会化を重視し、飼い主が子犬の社会化期に必要な知識としつけ方について学び、困りごとの解消を図る。

令和4年11月11日（金）

### ・身体障害者補助犬の普及啓発事業

「**介助犬と歩こう!**」

身体障害者補助犬とのふれあいを通して身体障害者補助犬に対する社会的理解を深め、障害のある人もない人も、共に幸せに暮らすことができる「誰も取り残さない」社会の実現を目指し、以下の日程で実施した。介助犬と共に屋外を歩いて交流し、介助犬のデモンストラーションを通して介助犬等の身体障害者補助犬の普及啓発を図った。

令和4年4月23日（土）／5月30日（月）／6月27日（月）／10月2日（日）／

11月21日（月）／令和5年3月13日（日）〔協力：認定特定非営利活動法人兵庫介助犬協会〕

・専用ウェブサイト <https://kobe-chai.jp>

こうべ動物共生センターのコンセプトや事業内容について情報発信を行うと共に、各事業の参加者募集案内や事業実施レポートを随時更新し、こうべ動物共生センターおよび事業のPRを行った。各種プログラムへの参加はウェブサイトから申込を受け付けている。また、資料・報告を専用ウェブサイト上で提供することで、来所できない市民への利便を図っている。しつけ方教室や飼養相談およびその対策等については事例として紹介して市民に情報を提供している。こうべ動物共生センターで実施している事業の成果を活用し、市民の様々な課題に対し、解決・相談の場が整備されていることを報せている。専用ウェブサイトは日本語だけでなく、英語、ドイツ語、中国語などにも対応し、国内外への情報発信を行った。このように、専用ウェブサイトは、市民がこうべ動物共生センターの事業に参加するなどして関わる「市民とのコミュニケーションの場」として、「国内外への広報」として、重要な役割を担っている。

・センターの管理・運営に関する業務としては以下の業務を行った。

電話対応／来所者対応／メール対応／見学・視察対応／取材対応／市主催の事業（犬猫譲渡制度等）の補助

<ペットも一緒にSDGs！>

「ペットも一緒にSDGs！」のカテゴリーにおいては、「人とペットとの暮らし」の視点を活かしたSDGsの取り組みの推進として、高齢者の生活機能維持のために犬と一緒に体操を行うプログラムについて検討したが、新型コロナウイルスの影響により実施できなかった。

カーボンニュートラルに関連する取り組みについては、エンジンをかけたまま車中にペットを置くことを避けたり、人とペットが共にお出かけを楽しむことができることを目的としたペットの待機場所を開設する計画を進める企業からのコンサルティングに対応した。さらに、ペットツーリズムに取り組む一般財団法人神戸観光局監修のペットと一緒に出かけられる観光スポット案内「ペットと旅するKOBE」を、当法人が神戸市より管理運営業務を受託しているこうべ動物共生センターにおいて広く市民に配布した。

## II 組織の運営に関する事項

### 1 社員総会の開催状況

	開催年月日	主な議決事項等
定時	令和4年6月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第12期計算書類等承認の件（承認可決）</li> <li>・理事の報酬の件（承認可決）</li> <li>・理事就任（新任）の件（承認可決）</li> </ul>
臨時	令和4年8月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第12期財務諸表修正の承認の件（承認可決）</li> </ul>

## 2 理事会の開催状況

	開催年月日	主な議決事項等
第 64 回	令和 4 年 5 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 3 年度 事業報告の承認の件（承認可決）</li> <li>・ 令和 3 年度（第 12 期） 計算書類の承認の件（承認可決）</li> <li>・ 理事の報酬の件（承認可決）</li> <li>・ 理事就任（新任）の件（承認可決）</li> <li>・ 就業規則一部変更の件（承認可決）</li> <li>・ 社員総会招集の件（承認可決）</li> <li>・ 正会員の承認の件（承認）</li> <li>・ 職務の執行状況の報告</li> </ul>
第 65 回	令和 4 年 7 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 12 期財務諸表修正の件（承認可決）</li> <li>・ 公益社団法人 Knots 寄附金の処理基準（改正案）の承認の件（承認可決）</li> <li>・ 令和 4 年度収支予算書の修正の件（承認可決）</li> <li>・ 臨時社員総会招集の件（承認可決）</li> </ul>
第 66 回	令和 4 年 12 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務所移転の件（承認可決）</li> <li>・ 登記変更の件（承認可決）</li> </ul>
第 67 回	令和 5 年 3 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 5 年度事業計画案承認の件（承認可決）</li> <li>・ 令和 5 年度収支予算案承認の件（承認可決）</li> <li>・ 業務執行理事承認の件（承認可決）</li> <li>・ 職務の執行状況の報告</li> </ul>

## 3 役員に関する事項

地 位	氏 名
代表理事	富永 佳与子
業務執行理事	白川 美玖
業務執行理事	小椋 聡
理 事	佐藤 剣
監 事	堀尾 政博
監 事	岡田 裕正

## 4 辞任した役員の氏名

地 位	氏 名	退任月日・退任事由
	該当なし	

## 5 事務所の移転に関する事項

コンサルティング事業等の相談業務にも幅広く対応し、さらに円滑に事業運営を行うため、従来の事務所よりも広い場所に移転した。



## 6 法人の運営組織の状況に関する重要な事項

ガバナンスが機能した理事会を運営することは、理事の重要な職務執行であり、これを更に適切に機能させるため、理事の法令等順守に対する認識を高め、理事会でのガバナンス機能の強化に努めた。

## III その他法人の状況に関する重要な事項

令和4年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2023年5月  
公益社団法人 Knots